

まほちゃんにごはんをたべさせたとき  
かつらぎ小1ねん たなかしゅうたろう  
ぼくには まほちゃんといういもうとがい  
ます。フさいです。まほちゃんが1さいのと  
き、ぼくがごはんをたべさせたひのおはなし  
です。

「あーん」  
というこ、ぼくはまほちゃんにごはんをひと  
くちあげました。まほちゃんに、ごはんをば  
くるとたべこ、おひこをばちんとあわせまし  
た。

「あれ、ばやいな」  
とぼくはいいました。もうであそぶよまなの  
かな、とおもいました。ぼくはもういちど、  
まほちゃんにごはんをあげました。すると、  
まほちゃんにはごはんをばくとたべこ、また  
おてこをあわせました。もうたべないのかな  
まだたべるのかな、どうかな、とおもいま  
した。それならまほちゃんか、ごはんをゆい  
べしました。

まほちゃんはまだしゃべれないけれど、お  
こをかわせたりゆびさしたりして  
「いたがきます」

「も」とたべたい」

とおはなしたいのがなとおもいました。だ  
から、ぼくはまほちゃんにごはんをあげまし  
た。たべるのがはやくて、しんぱいして、  
「ちやんとおむしころのかな」

といました。

「おいしいですか」

とぼくがきいたら、まほちゃんは「うん」と  
うなずきました。うれしそうでした。

いまじもたまに、まほちゃんが

「たべさせて」

というとき、ごはんをたべさせてあげます。

たべしているときまほちゃんは、ほっぺがもち  
あがって、うれしそうなおになります。よ  
ろこんでくれて、ぼくもうれいのです。いっ  
ぱいたべて、も「とおおきくな、ね」とお  
もいました。